

社会医学講座

※基本的には大学院生としての入局になります

大学院

1. **学位のテーマ**：産業医学、環境医学、疫学、臨床疫学など
 - 基本的には本人の興味を優先しますが、修了までの時間も考慮しなければならないので、教室で進行中の研究をテーマにすることも可能です
2. **学べる事**
 - 公衆衛生、疫学、産業医学：保健所医師・産業医、研究者としての基礎を学びます

取得可能資格

1. **認定産業医**（吉田、西條、吉岡）
 - 道内の医師会の研修を受ける場合は、約1年半くらいかけて取得
 - 1週間の集中講義による取得も可能（北九州など）
 - 産業医学基本講座（産業医大で行われる専門的な講習：4-5月の2か月間：西條、吉岡が受講）
2. **社会医学系専門医**（指導医：吉田、西條、吉岡）
 - 北海道社会医学系専門医研修プログラムに参加しています（3年間で取得可能）
3. **日本産業医学会産業衛生専門医**（指導医：吉田、西條）
 - 社会医学系専門医取得後に研修となります
 - 旭川医科大学は認定研修施設
 - 産業医業務の頻度により取得まで3～5年
4. **労働衛生コンサルタント**（吉田、西條が取得）
 - 産業医の上位資格のため、通常は産業医実務を数年以上経験してから受験します

大学院終了後の進路の例

1. **教育・研究**—大学教員や研究所勤務
2. **専属産業医や労働衛生機関**（企業健診や産業保健を提供）
3. **保健所医師**（道内—北海道庁の各保健所と、旭川・札幌・小樽・函館市の保健所）
4. **厚生労働省**

大学院生活

1. **収入**
 - 週2日程度、健康診断や産業医の非常勤業務を行うことができます
 - 病院等の当直も可能
 - 医療保険は旭川医科大学の医師会国保、年金は国民年金に加入
 - 大学のティーチングアシスタント、リサーチアシスタントに応募、教室で行っている研究のアルバイトなど
2. **ワークライフバランス**
 - 産業保健の専門家として、働き方改革関連法やメンタルヘルスに対応することができるようになります

社会医学講座入局のメリット

1. 社会医学系教員の不足、保健所医師の不足、働き方改革法やメンタルヘルスへの対応のため産業医需要の増加により、求人は比較的多いと思います
2. 学位を取得することにより、仮に保健所医師や産業医となった後、実務に詳しい教員として医学部やそのほかの医療職養成大学の教員になることが可能になります。また、大学の専属産業医は学位が必須であることが多くなっています。